

平成26年度（2014年度）真珠養殖漁場の真珠母貝成長

磯田 能年・石崎 大介

1. 目的

県内淡水真珠養殖漁場の状況を把握するために、水質および母貝の成長をモニタリングした。

2. 方法

2014年5月から2015年3月にかけて県内の主要な真珠漁場である西の湖、赤野井湾、堅田内湖において、概ね2ヶ月に1回、真珠母貝の殻長および殻重の測定を行った。測定に用いた貝は2012年より垂下している大型の母貝（以下大型貝、n=19, 25, 25）ならびに、2014年7月より新たに垂下した小型の母貝（以下小型貝 n=25, 25, 25）の2系統を測定に供した。大型貝は縦型のネットに収容し、小型貝はバットの底に砂を敷いて、その中に収容した。水質はイケチョウガイの餌料環境を評価する指標として、粒径20 μ m以下の画分のクロロフィルa量を分析した。

3. 結果

各漁場における母貝の成長を図1に示す。

大型貝、小型貝ともに各漁場とも一定の成長はみられたが、大型貝では赤野井、小型貝では西の湖で、良好な成長が確認された。粒径20 μ m以下の画分のクロロフィルa濃度は西の湖で高く、赤野井湾や堅田内湖では同様の傾向を示した（図2）。

各漁場において大型貝は今年度の調査期間中、堅田内湖で1個体死亡した。小型貝は堅田内湖で3個体死亡した。堅田内湖では母貝の死亡率が高いことが懸念されが、同内湖は2012年度から、夏季にヒシの繁茂が観察されており、養殖環境が悪化していると考えられ、ヒシの除去等の対策が必要であると考えられる。

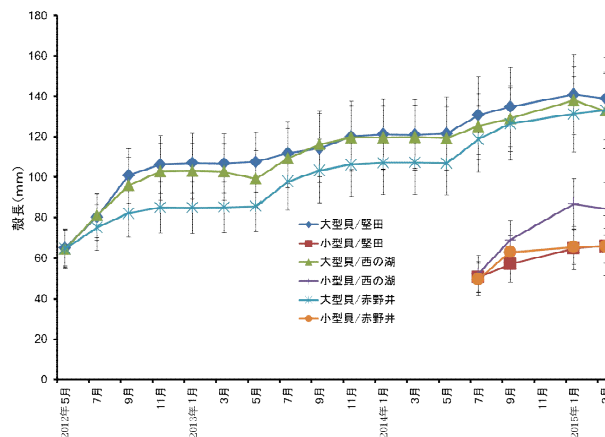


図1 試験貝の殻長測定結果

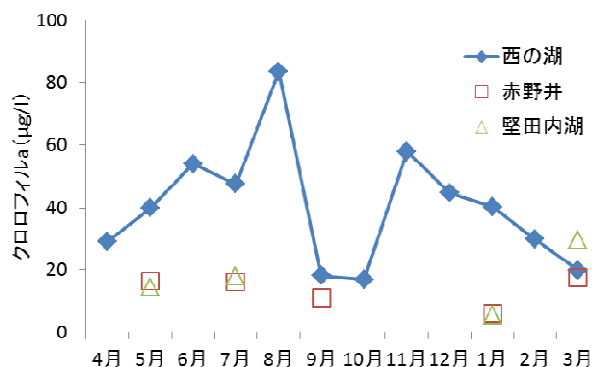


図2 粒径20 μ m以下の画分のクロロフィルa量の推移